

## 令和6年度 第4回就労移行支援事業所等連絡会議を開催しました

令和6年10月17日（木）15時より、みやぎハートフルセンター 中会議室を会場に「第4回就労移行支援事業所等連絡会議」を開催し、就労移行支援事業所等の支援者22名の方にご参加いただきました。

第3回就労移行支援事業所等連絡会議の講義では、支援方法を考える際に、問題の理由は「~だろう」とすぐに結論づけてしまうのではなく、まずは事実状況を可能な限り具体的に把握し、事実の背景や原因を的確に捉えてから支援策を考えることが大切であることを学びました。

そこで、今回は「事例を通して学ぶ」～課題の背景を通してご本人をより深く知るためには~と題して、第3回で学んだことを踏まえた事例検討を行いました。

今回はオルタハ乙女の小野寺志帆様より事例をご紹介いただき、支援課題に対してどのような支援方法があるのかをグループワークで意見を出していただきました。

事例で取り上げた支援課題の一つに「自分や他者に対し『できない・ミス=悪』の考え方に捉われている。考え方の選択肢を増やす必要がある」という課題がありました。

参加いただいた支援者の方からは、「できないこと」だけでなく「できたこと」や「強み」をフィードバックする、できないことは悪いことではなく「次にどうするか」を支援者と一緒を考えて行く等の意見が寄せられました。



グループワークの様子



オルタハ乙女小野寺様(左)  
松坂上席カウンセラー(右)

最後に宮城障害者職業センター松坂上席カウンセラーから、「事例を自身のケースと照らし合わせながら学習することで、何に基づいてどんな意図で支援を行うかを整理することができる」「移行支援事業所の2年間の支援だからこそやれることがある」などの講評をいただきました。